

水掛不動尊

霊場内の岩上の石像は、五明王の一尊であり、仁和寺が属する真言宗の中心尊である不動明王を表現したものです。右手には剣を振りかざし、左手に縄を持ち、今すぐにでも悪魔や仏教の敵に対して怒りを解き放たんとしています。一般的な不動明王のイメージと同様、この像には炎の光輪と頑丈な岩の台座があり、不動明王（不動とは、「動かない」ということを意味します）の決意を表していると言われています。

水掛とは「水をかける」という意味で、お参りをする前に像に水をかけるための長い柄杓が用意されています。

伝説によると、この像は江戸時代（1603～1868）のある日、氾濫した京都の川の中で、「助けてください」という声を聞いた人が発見したということです。水から上がると、明王が仁和寺に連れて行ってほしいと頼み、泉の横の岩の上に安置されました。その湧き水が今、像の前の井戸に流れ溜まっています。